伊香保案内

鈴木秋風著

蘭領の街市從香伊

K295.1
Z17
「127326」

望遠の街市保存伊

K295.1
Z17
127356

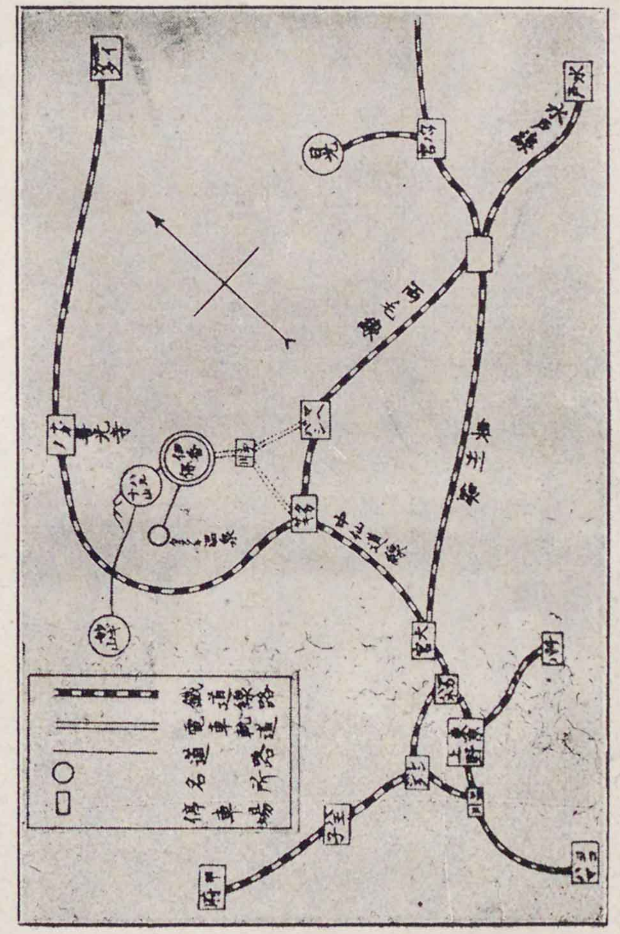
伊香保案内

鈴木秋風

人生最大の幸福

人の此世に生れて、最も大いなる幸福は何。名譽か、黄金か、權力か、爵位か。否、否、否。名譽も、黄金も、其他の何物も、健康な身體があつてこその寶である。譬へ巨萬の富を積んで、榮耀の限りを盡すとも、宿痾の爲めに惱み、轉々して呻吟懊惱する身ならば、人生何の幸ひかあらう。この世の眞の幸福は健康である。健康あつてこそ、千百の悦びも、樂しみもある。

然らば此健康は、何に依つて得らる丶乎。衞生、攝養の法にも種々あらう。或は運動を試みて身體を鍛るなり、或は滋養物を取つて養生するなり、或は高



尙な娯樂に依つて精神の慰安を計るなり、夫れ〳〵の手段もあらうが、中に一際優れて、効力の著しいのは、山間の温泉浴である。病のある人と無い人とを問はず、擾々紛々たる黄塵萬丈の都會を離れて、新鮮な空氣、明媚な風光の中に包圍され、靈驗の多い温泉に浸り乍ら、靜に生を樂しまば、誰とて百年の壽命を延べ得ざるものぞ。

山間の温泉として、何處を擇ぶべきか。これが次て起り來る問題である。こゝに於て、私は何人に向つても、先づ必ず伊香保を勸め度いと思ふ。然らば何の故を以て、私は敢て伊香保を勸めんとするか。

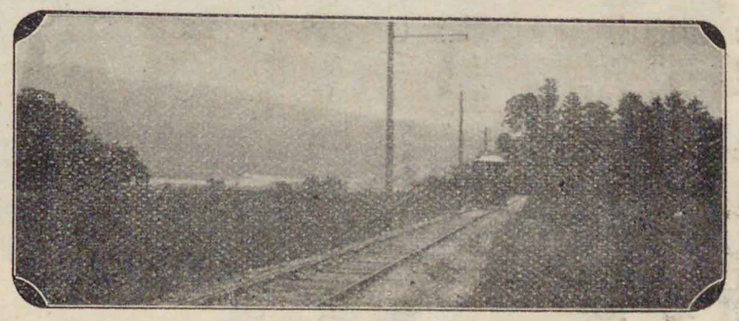
伊香保の市街

理想の保養地

伊香保は山上の温泉である。山としては景色が明媚である。温泉としては効能が偉大である。それで居て、凡ての設備が完全して居る。路は東京を去る事僅に三十五里、汽車あり、電車あり、足を地に着けずして、樂々と横に寢ながら、五時間以内に行く事が出來る。東京に最も近い、最も便利な温泉は、云ふまでも無く此伊香保である。

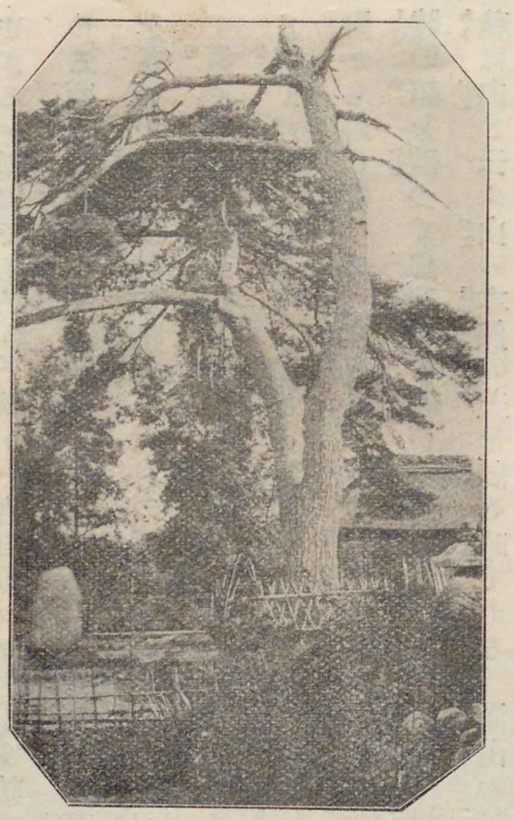
上州の三山の一として名高い榛名山の中腹、其處は伊香保温泉の在る處である。群馬縣群馬郡の西北で、伊香保町と云ふ。高さは海拔二千八百尺、地勢の傾斜が急なので、雨は直に流れて、泥濘を作らない。此邊一體は皆火山岩であ

るが、全くの死火山で、此後爆裂するやうな恐れは決して無いから安心である。地は既にかくの如く高燥である。氣候自ら人に適ふて、寒暑の苦は更に知らぬ。夏は暑く、冬は寒い。何處でも同じ事ではあるが、伊香保にばかりはそれが無い。何となれば、夏は土地高燥で、綠蔭深く日光を鎖す。これを以て大暑の頃と雖も、華氏寒暖計八十五度を越えた事は無い。東京衛生試驗所喜多尾技師の報告書は、伊香保の夏季の温度は、東京の夏季の温度よりも、平均華氏十度程低いと云ふ事實を、吾等に語つて居る。これで如何して盛夏の苦熱を知る事が出來やう。涼しい風は松籟となつて琴の音を立てゝ居る。谷間に



伊香保電車

は遠く溪流の響が潺湲たる曲を奏して居る。峯の梢に鳴く蟬の音は喧ましくとも、欄干に干した手拭はヒラヒラと音も無く飜へる。温泉に浸つて來て、開け放した木蔭の座敷の眞中に腹這ひになる時、暑いとは流石に口には出まい。冬は之れに反して暖かである。温泉の温氣と火山脈の地熱は、寒氣を融和する。況して地勢は後に山を負ふて、前が開いて居る。冬を知らぬ小春日和の長閑な光がホカ〳〵と和らかに落ちて來て、日向はポウと上氣せる程の暖かさである。雪



御蔭の松

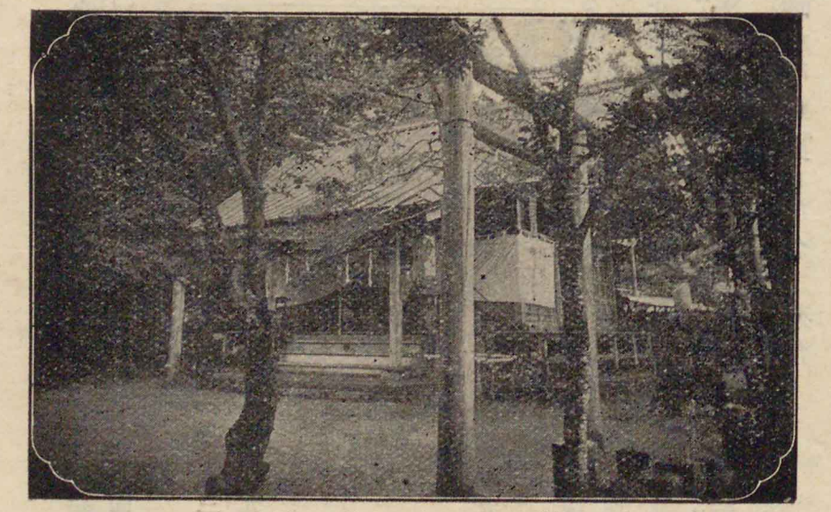
は滅多に降らぬ。降つても五寸とは積らぬとは嘘のやうな話である。

春は如何か。此問に答ふる事を以て、恐らく伊香保の人々は、最も光榮を感ぜざるを得ぬであろう。暖かい春風がソヨ〳〵と訪つれて、谷間の氷が解け始める頃程、此山の樂しい時は無いであらう。野には若草が燃え出て、霞は裾野を罩めて行く。殊に曉春五六月の頃は、梅、櫻、杏、梨、躑躅の花一時に開いて逝く春を飾る。況んや名も知れぬ草花、紅紫黄白さま〴〵の彩を見せて、峯と無く、林と無く咲き誇る。谷間から谷間に響くは鶯か。なだらかな斜面の野から野に聞ゆるは駒鳥か。ホウ法華經の啼き音は珍しくないかも知れぬが、曉の闇を破つて慈悲心と囀づる聲を聞けば、何とは無しに腸まで浸み通る。秋は山と云ふ山の本然の美を誇る時である。滿山の紅葉は將に燃えんとして、雲に霧に見えては又陰れる。野菊の亂れ咲いたほとりや、桔梗萱草の雜然生ひ繁つて、蟲の咽びなく草野、林中に分け入れば美しき姿の初萱、これも伊香保

の名物である、茸狩りに四圍をめぐる山々の紅葉が夕日に燃えるところや、萬更棄てたものではない。楓樹多い伊香保の秋は、亦天下の絶勝である。

偉効ある温泉

こゝに湧き出る處の温泉は如何か。湯元は岩の罅間である。絶えず沸々と吳き出して居る。温度は平均攝氏四十五度、無色無臭で清く澄み切つて居る。味は微かに舌を刺激し、稍爽快な感じを與へる。内務省衛生試驗所の



伊香保神社

分析表には、かう書いてある。

泉質は鹽類性綱鐵泉に屬す。反應は微弱酸性なれども、煮れば弱アルカリ性に變じ、帶黄白色結晶性の物質となる。比重は攝氏十五度の時一、〇〇〇八〇なり。定量分析の結果、一千分毎に含む固形物總量〇、九五八六四分なり。其各成分は左の如し。

硫酸カリウム	〇、〇二二〇一	酸化アルミニウム	〇、〇〇三五六
硫酸ナトリウム	〇、一〇〇六七	硅酸	〇、一五九三〇
硫酸カルシウム	〇、二七六八六	燐酸	痕跡
クロールナトリウム	〇、〇四六八〇	硼酸	痕跡
クロールマグネシウム	〇、一〇三五五	ヨード	痕跡
炭酸ナトリウム	〇、〇八七九三	プローム	痕跡
炭酸カルシウム	〇、一〇一六〇	有機物	痕跡
炭酸マグネシウム	〇、〇〇三〇五	遊離及半結合炭酸	〇、七七九八〇
炭酸鐵	〇、〇一五八一	遊離炭酸の立方センチメートル	三五一、〇
炭酸亞酸化マンガン	〇、〇〇三五六		

これに最近の醫學界で、温泉の有効なる所以は、其泉質の外にラヂユームなる一種の放射物質に依るものなる事が論定されてから、專門家は全國各地の各温泉に就いて調査中であつたが、四十三年伊香保に於いて始めてこれが發見された。伊香保温泉の特効ある事は、愈々確かな事實となつて來た。

一體此處の温泉は鐵氣が多いから、血液を增加する効がある。貧血症、病後衰弱、婦人血の道、小兒發育等には最上のものである。衛生試驗所の調査に依ると次ぎの樣な醫治効用があるとしてある。

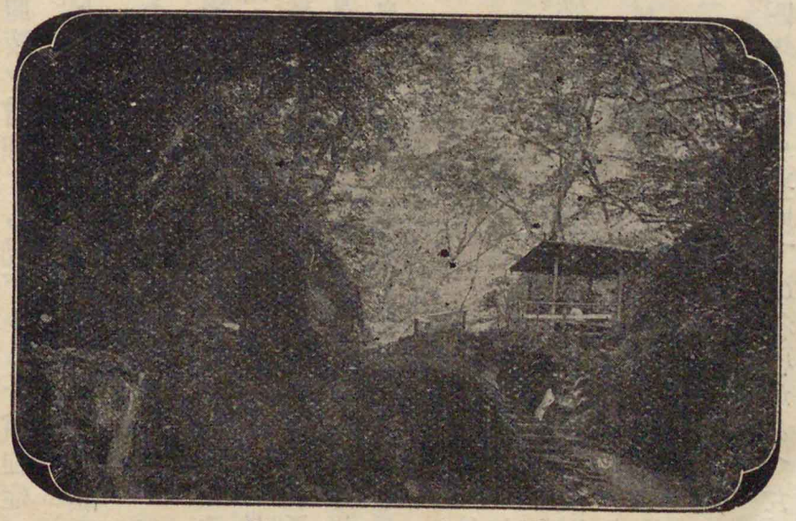
貧血諸病。萎蔫病。腺病(瘰癧)慢性僂麻質私。痛風。脂肪過多症。慢性消化器病。慢性生殖器諸病。(慢性子宮實質炎。慢性子宮内膜炎。慢性子宮頸加答兒。慢性子宮周圍炎。月經不調。子宮出血。貧血又は衰弱に原因する陰萎。遺精。精漏。慢性痲痺病)神經諸病。(歇秋　神經衰弱。鬱憂病。神經痛。慢性呼吸器病。慢性皮膚病。重病後又は身体精神過勞の衰弱。以上の諸病には特效あり但し熱性諸病。肝腎及肺の機官的疾患。殊に咯血に伴ふ肺結核。高度の充血症には甚だ害あれば、此湯に入るべからず。

伊香保はかくの如く佳絶なる風光と、偉効なる温泉とを併せ領して、加ふるに設備の善美と、交通の便利とを兼ね備へて居る。來り浴する者四時其跡を斷たず、全國温泉場中第一の繁盛を見るは亦遇然ではない。殊に明治十二年には畏くも皇太后陛下の行啓があつた。廿二年には常宮昌子内親王殿下、越へて三十五年には皇太子殿下(今上天皇)四十四年には皇孫殿下の行啓があつた。有栖

宮、梨本宮、朝香宮、北白川宮各殿下の御成りも相次いたつて。あ伊香保の光榮は無上である。

途中の道筋

伊香保へ行く道筋は如何か。東京から行くには高崎廻りと前橋廻りと此二つの路がある。高崎又は前橋まで汽車、それから澁川まで電車、此所で又電車に乘換て伊香保の入口まで行く。鐵道院では既に上野伊香保間の連絡乘車切符を發賣中である。



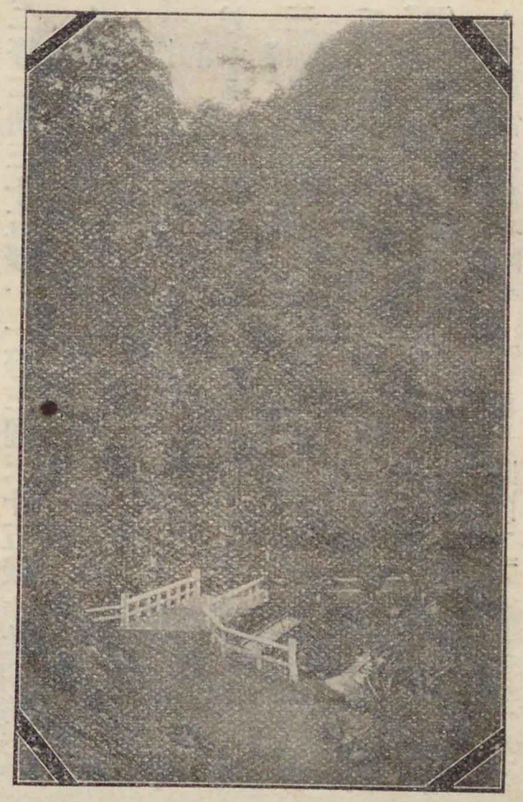
湯元公園

切符を幾度も買ふ世話も無ければ、殊に手荷物のある人は上野で預けた荷物は其儘伊香保驛で受取られるから大變便利である。連絡の賃金は三等一圓六十錢二等二圓三十五錢、一等三圓三十五錢。此切符で、前橋と高崎と、那方を廻るも乘客の隨意である。

扨高崎廻りと、前橋廻りと、那方を取つたがよいか。これは一寸、上下を附け兼る程、那方も興味の多い旅行である。高崎廻りは上野高崎間の汽車が六十三哩で二時間三十八分高崎澁川間の電車が十三哩で一時間十五分、計七十六哩で三時間五十三分を要する。又前橋廻りは汽車が六十九哩の三時間二十一分、電車が九哩の五十分、計七十八哩の四時間十一分を要する、後澁川から伊香保までの電車が七哩で上りが一時間で下りが四十分を要する、これで見ると前橋廻りは路が遠くて時間が餘計に費るが、賃金は同じであるし、また往復に違つた道を取つて、此の二つの市街の樣や、途中の其地特有の景色を比較して見川

るも面白かろう。

兩毛線に依る旅客は、無論前橋を經由するが良い、信越線に依る旅客は高崎の一つ手前の飯塚驛で下車すれば、直に高崎澁川間の電車に乗れる



猿澤橋

前橋、高崎の那方も澁川への途中は風光明媚である。西南には妙義、淺間を始め、碓氷甘樂、秩父の山々を雲煙の間に望み、東には赤城、行く手の北には子持、小野子の諸峯が指呼の間に散在する。洋々たる利根の流れは、其間を北より來つて南に流れて居る。白帆

の點々行きかふ樣は、丁度繪の樣である。

澁川町は高崎から五里半、前橋から四里を隔て居る。人口五千、越後街道の要衝に當り、伊香保を始め、草津、四萬、澤渡、川原湯等の各温泉へ行く途中になつて居るので、繁華な少都會である。旅宿も數軒ある。前橋、高崎から來た電車は皆此町で下りて、更に伊香保行の電車に乗換へる。伊香保までは二里十五町、爪先上りの急な傾斜面を、電車はそろ〳〵と上つて行く。此電車は四十三年秋十月に始めて開通したもの。其線路の全長が七哩。八十七ヶ所の屈曲があつて、最大勾配が十八分の一、平均二十二分の一の急斜面である。併し九段坂下や赤坂見附下の樣な椿事の無い事は請合である。途中には六ヶ所の避難線がある外に、日本唯一の電磁ブレーキの仕掛もある。此ブレーキを掛けると、電車は磁力を以て線路に固く吸ひ附いて、どんな疾走中でも直と止つて了う。電車としては東洋一の難線路ではあるが、此完全無双な裝置がある以上は

如何に命の惜しい人でも、心を安んじて乘る事が出來やう。

一歩にして一景を産むの樂しさは、此所に極つて居る。赤城の裾野に沿ふて開けた上武兩州の平野は、上るに從つて次第に廣く表はれて來て、森や、川や、丘や、田畑や、人家が、一々指點し得らるゝであらう。

上る事一里半、時間にして四十分の後、單線を走る電車は、上下二臺を此所に待合はして交換する爲めに、兎ある停留所に止まる。こゝを御蔭の松停留所と稱す。右手の街道に沿ふた林の中に、亭々たる老松が一株立つて居る。先年皇太后陛下が伊香保に行啓あらせられて、こゝを通御の御路すがら、此松の下蔭に御休憩遊ばされたので、それから後御蔭の松と稱して居る。樹下に紀念の歌を刻んだ碑が建つ。傍に一軒の茶屋がある。御蔭の茶屋と云ひ、其前には清徹玲瓏の清水が湧く。

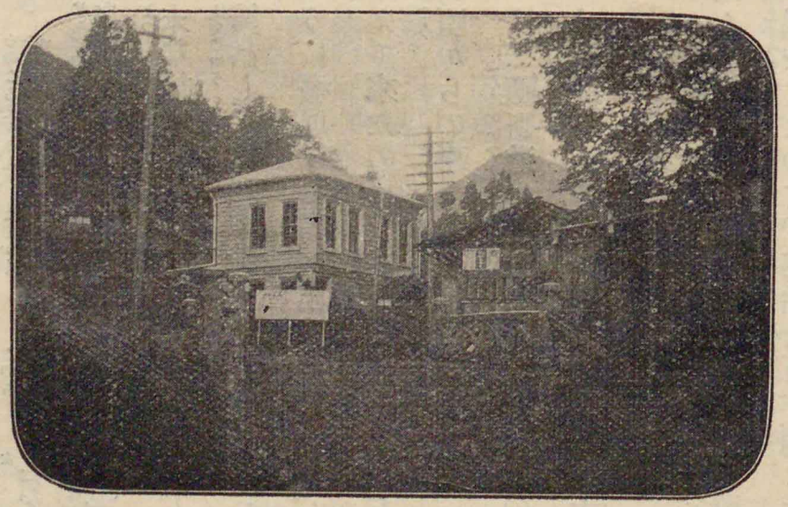
それから尙上る事一里、時間にして四十分の後、鬱蒼たる山中に、大厦高樓

は蜃氣樓の如く眼前に顯はれて來るに氣が附くであろう。此仙鄕が即ち伊香保である。電車は此市街の入口を去る事僅に二三町の處で盡きて居る。

伊香保の歴史

何時から温泉が出來たか、今はもう確な事を知る事が出來ぬ。口碑の傳ふる限りでは、二千餘年前なる垂仁帝の時代に、始めて温泉が湧いて出たとある。

四五百年前、此温泉が廣く世に知ら



橋　聞　物

れて居た事は、古書に依るも明らかである。其頃遠近の浴客が、此地の名を聞いて群集した事も確かであるが、當時は温泉場とはほんの名計りで、今の湯元附近に小さな風呂を設け、僅か一二軒の粗末な旅宿があつたに過ぎなかつた。

夫から後、時世の移るに連れて、段々と繁昌し、宿屋の數も殖えるやうになつたが、湯元の場所は兎角狹くて、思ふやうに發展する事が出來ないので、天正四年に今の地に移つた、伊香保が愈々榮えて來たのは、其後の事であつた。

伊香保に大屋と云ふ者の出來たのは、其頃からの事である。所謂鄉士で、關所の守護の任に當つて居た。當時伊香保には三國街道の裏道があつた。今の關屋は其跡である。大屋は元十四軒あつたが、後に十二軒になつた、これを十二支に擬して呼ぶ樣になつたが、今も其名が殘つて居る。

徳川時代には、全國の温泉場に湯女と云ふものがあつた、伊香保にも元祿寛保頃は、此湯女が盛であつた。其後公許の娼妓となつて、明治十五年頃までは

其數五六十人、貸座敷營業を爲す者は十一軒あつたが、十六年に廢娼の令があつて、それから以後全く其跡を斷つて了つた。今も伊香保の温泉宿の多くが、妓樓めいた建築に昔の名殘を留めて居る。

現今の伊香保

伊香保温泉は町制を布いて、伊香保町と云つて居る。戸數三百、人口千六百、温泉宿商家軒を並べて、殷賑を極めて居る。東西六町、南北四町、嶮崖を削つて石垣を築き、脊後に一軒毎に高く聳えて、後の家は前の家の屋根の上に在るやうに見える。之を離れて見ると、全町悉く一大階梯である。此景色は此町特有のものである。

かうして最も前なる家の前は、深い谷となつて居る。最も後なる家の後は、峨々たる山となつて居る。而も互に屋根の上に高く聳えて居る事とて、更に視線を遮らるゝもの無く、窓と云ふ窓、戸々悉く開豁の眺望を恣にし、遠く

望めば赤城、子持の山々、煙霞の間に指點するを得べく、仰いで脊後を顧れば、翠色滴らんとする榛名連山の懷の中に在るを覺えるであろう。

由來温泉場の多くは、谿間の低地にあつて遠望の景色に乏しい。此間に在つて、我が伊香保のみは、海拔三千尺の榛名の中腹に、三面開濶なる眺望を恣にして、信、越、岩、野、十州の山川を悉く脚下に集めて居る。殊に一帶の地質が火山岩で出來て居る爲に、常に乾燥して濕氣が少い。蚊や蠅や其他の蟲類は殆ど跡を斷つて、盛夏の頃と雖も、昔から曾て蚊帳を用た事が無いのは、全此故である。温泉場の多くが濕氣の多いのに、此點が又伊香保の特色である。

温泉宿は數十戸ある。皆三層四層の大家高樓で、清掃盡さゞる無く、善美到らざるは無い。皆夫れ〴〵奇麗な内湯を持つて居る。夜になれば、明煌々の電燈がパッと點いて、此深山の奥に不夜城を出現させる。電話の鈴の音はチリンチリンと鳴つて、町の内から外から、遠くは東京横濱とも自由に話が出來る。

設備の完全な例は、屋根の上に避雷針の設さへある。これならばいくら雷樣の嫌ひな人でも、線香を立てたり、臍を心配したりする要は無い。待遇の懇切食物の甘美、これ又他言を要せぬであろう。

入費の低廉、これ又驚くべき事實である。普通の旅籠料の安い事は勿論、五日なり一週間なり滯在の客には、自炊の組織を以て、萬事手輕に、經濟に、好むがまゝの賄ひに應ずる。若し極めて簡易な生活を欲する客は如何なる程度までにも、簡易な生活が出來る。又これと同時に、一方に於いては食料器具の日用品は勿論、あらゆる娯樂品まで完備して居る。若し贅澤なる生活、豐富なる衣

七重の瀧

食住に飽かんと欲せば、これ又立處にして、千百の要求する處、悉く與へらるゝを見るであろう。中流の紳士に取つても、上流の貴顯に取つても社會の各層を通じて、各樣の生活を實現する事の出來る温泉塲は、天下廣しと雖も、只此伊香保温泉塲ある已である。伊香保は實に、萬人向の温泉塲と云ふべきであろう。宜なる哉、伊香保の年々來遊の浴客の數は、全國温泉塲中第一である。平均一ヶ年間の客數が三萬人、二日以上滯在の數を通算すると、實に二十三萬に上る。

町の中央に、伊香保鑛泉塲組合取締所と云ふのがある。伊香保の改善、發展、向上の策は、大小と無く此所に於て攻究される。風紀の取締の勵行さるゝと共に、商賈、旅宿の物價等にも或る一定の規律を設け、衛生の方法に就いても、充分の監督が行届く爲、伊香保在てこの方、未だ曾て一人の傳染病患者を出した事が無い。

其近くに又浴醫局と云ふものがある。此所では浴客の需めに應じて、體質を檢査し、入浴の回數や時間、運動の方法に對する注意を與へ、又滯在中の經過成績等を報告する。體量器、肺量器等の備へもある。體格檢査はいつでも望む人の爲めに出來るやうになつて居る。

町内には、此外に警官駐在所、郵便電信局、町役塲、小學校、少し離ては居るが水力電氣發電所もある。畏れ多くも離宮もある。別莊には岩崎家、元布哇公使アールエン氏等。娯樂塲としては倶樂部、玉突塲等。其間を縫ふて、數十の商家は軒を連ね、伊香保名産の品々を始め、凡て

辨天の瀧

の衣食品、日用品で店頭を花やかに飾つて居る。

序に伊香保八景を紹介して置かう。曰く、上の山の月、關屋の雲、猿澤の猿、物聞山の杜鵑。丸山の躑躅。高根の鹿。二つ嶽の雪。沼の杜若。此八つである。

伊香保の名産

伊香保名産は何々か。入浴の紀念の爲めに、又家の土産の準備に、一通り調へて置く必要があろう。

湯花。これは何處へでも持つて行つて、据風呂の中に適宜に入れる事が出來る。伊香保温泉と同じ効能があるのが値打である。現に東京や横濱其他の地に此湯花を用ゐて、『伊香保温泉』と稱して營業して居る者が多い。

湯花染。湯花で染めたものである。これは直接皮膚に觸るべき衣類を作つて用ゐれば、衛生上に多大の効能がある。子供の腹卷、胴卷を始め、浴衣地、手

拭等が出來て居る。第三回内國勸業博覽會で、二等賞を受けた。

鑛泉化石細工品。温泉が或る物に固着して化石となつた物を、鑛泉化石と云ふ。これは此化石を細工した物である。硯、印材、珠、床置物等が出來て居る曾て東宮殿下の御買上の榮譽を辱なうした。

轆轤細工品。附近の山中に生ずる欅、山柘、槐、桑、黑柿、栗等の木を細工した物で、菓子器、火鉢、手遊品等が出來て居る。

あけび蔓細工品。頗る美術的の物である。提籃、菓子器其他の物がある。

鑛泉飴。鑛泉を交へて拵へた物で、腐敗の憂れ無く、貧血病、肺病、子宮病等の人に効能がある。

鑛泉煎餅。山千鳥。香山椒。此三品は何れも滋養と風味とを兼ね備へた物である。山千鳥は蕗の砂糖漬。香山椒は山椒の芽の砂糖漬である。

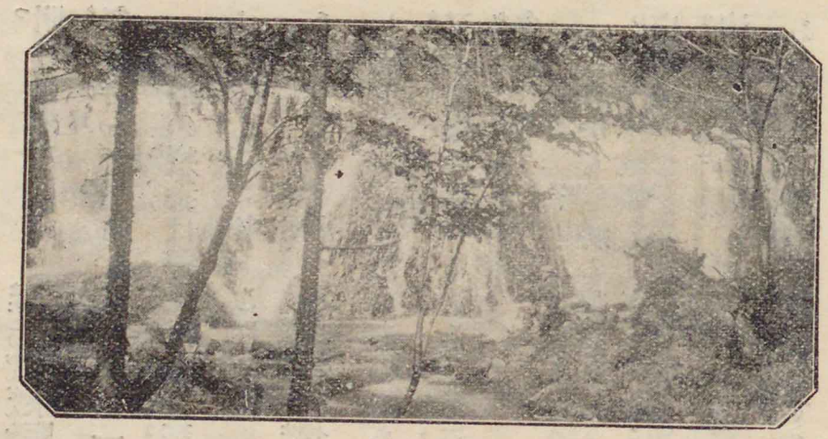
此外に又種々なる。雅致のある萩の軸で出來て居る伊香保筆。髮洗粉。氷豆

腐。蕨。蕗等は其重なる物である。

入浴の注意

温泉其物が如何に効能多大であつても、入浴の方法が宜しきを得なければ、何にもならぬ。否却つて害がある。入浴の回數や時間等は、人々の體質に依つて、夫れ〳〵別に定めねばならぬ、病者は勿論。健康の人でも豫め伊香保浴醫局に就いて、聞き合すが萬全の道である。

然し乍ら、普通健康體の人は、最初一二日の間は一日二回宛とし、其以後は三回宛とするのが適度である。入浴の時間は十分から十五分の間。これ以上入ると逆上せて、頭痛や眩暈がしたり、鼻血が出たりする事がある。湯瀧に打たせるのは、餘り良くない。殊に頭痛症の人は尙更嚴禁せねば、却つて頭痛を增す憂れがある。食事の後、及び運動の後は、三十分間を經なければ入浴しては



大瀧

ならぬ。空腹の時や酒を飲んだ後は、尙更嚴禁である。

温泉を飲む事は、甚だ効能がある。胃病、貧血病、痔疾、痿黃病、慢性消化不良、子宮病等の人には特に効がある。かうベルツ博士は云つて居る。又普通健康體の人でも、毎日飲用すれば、消化を助け、血の循りを良くする。湯元には『飲湯』と掲示してある處がある。朝夕散歩を兼ねて行つて、あれを酌んで飲むのが一番良い。分量は一日五勺位づゝ、毎日二三度用ゐるのが適度である。然し分量を過すと、却つて胃腸を惡くするから、氣を

附けねばならぬ。又此温泉服用後、三十分を立たねば食事をしてはならぬ。鐵氣を含んで居るから、茶は一切飲まぬ樣にしなければならぬ。

湯治の療養は、此外に又種々な攝生が伴はねば、甲斐の無いものとなる。先づ運動と云ふ事。これは極めて大切である。一日湯に入つてはゴロ〳〵して居るやうでは、却つて身體の爲にならぬ。食事の前後には、務めて適宜の運動なり散歩なりをしたいものである。伊香保は幸ひにして、邊りに名勝古跡が多い又玉突場の設けもある。珍奇な高山植物や、標本の採集に適する蛾や蝶の類も多い。

それから精神の療養と云ふ事にも、注意せねばならぬ。一切の煩悶、苦惱を忘れ去つて、氣を樂に持つ事が大切である。遊戯なり、音樂なり、談笑なり、清新なる娯樂に日を瑣す事が專一である。只食慾が漸次允進して來るのが常であるから、兎角間食を欲するに至るものであるが、間食は大いに戒しめねばな

らぬ。大酒大食は無論嚴禁である。朝は成るべく早く起きよ。夜は成るべく早く寢ねよ。これが攝生の金科玉條である。

又氣候療養と云ふ事がある。氣候其物で療養するのである。伊香保は土地高燥の爲め、幸ひにして此氣候療養に最上の處である。譬へ温泉に入らずとも、此地の空氣を吸呼した丈けでも、既に此目的は充分に達せられる。

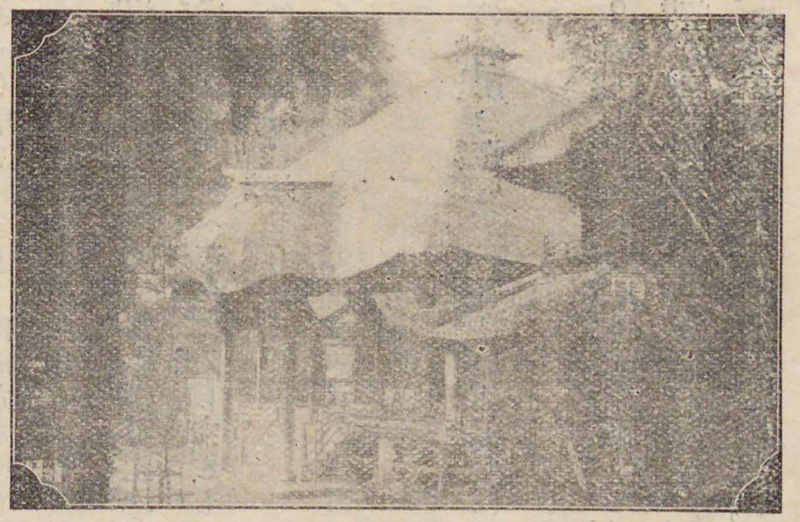
附近の名所

運動には散歩が一番良い。散歩には附近の名所を探るが一番良い。然らば、附近の名所とは何處を云ふか。

伊香保神社　町の南の最も高い處にある。大巳貴命と少彦名命を祀つた縣社である。祭日は例年十月十九日。境内眺望の佳、伊香保第一の稱がある。市街を眼下に見て、小野子、子持の山々を始め、遠く日光、筑波、赤城の連峯、

齋しく一畦の下に集まる。社前に常宮昌子内親王殿下御手植の松が二本ある數種の寶物もある。

湯元　伊香保神社の南の町から四五町離れた處にある。山に沿ひ谷に連つて風景の美を極めて居る。春五月、梅櫻杏梨躑躅の花一時に開いて、見ゆる限り悉く紅白の花と變じ、夏は鬱蒼たる翠葉青嵐を產んで、暑を知らず。秋は滿山紅葉錦を飾る。湯元の入口に長さ一間程の小橋が懸つて居る。これを**河鹿橋**（かじかばし）と云ふ此附近の溪



水澤觀音

流を**河鹿澤**と云ふ。河鹿が多く居て鈴の樣な音を、張つて鳴いて居る。殊に伊香保の河鹿は、他の土地の物よりも、遙かに鳴き聲が涼しく清らかである。對岸の稍高い所に、數百年を經た老楓樹がある。連歌師宗祇の手植になり、一葉々々紅葉の時を異にする珍木である。樹下の巨巖には**湯元不動**を安置する。一月二十八日が祭日である。それから尙少しく行くと、温泉の湧口に出る。綠葉繁る崖から滾々として湧いて居る。湧口は八箇所ある。其中で衛生試驗所の分析の結果、最も有効と認められたものに、石槽を設けて飲用の便に供へてあるこれが即ち飲湯である。其後手の小高い丘には小さな祠が立つて居る。湯元、琴平、相萬の三社を祀り、**湯元三社**と稱す。飲湯の稍下手の巖穴から、冷い泉が湧いて居る。飲料に供し、又腦病者の頭腦を冷すに適す。此附近一帶は伊香保の公園とも稱すべき處で、朝夕の散步地としては最上の處である。所々にベンチ、腰掛もあれば、新聞縱覽所の設けもある夜は街燈の電氣が點いて、其處此

處に篝火が明るく燃えて居る。夜の遊び場としても、適當の處である。

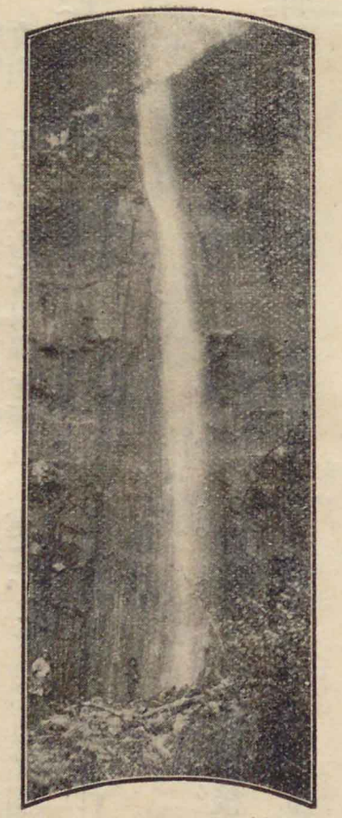
猿澤町　から湯元に行く途中にある。溪流には橋を架て猿澤橋と云ふ。昔は猿が多く居たので此名がある。對岸の巖壁を塀風岩と云ふ。又橋の袂に連る丘の上には、躑躅、櫻楓等の樹木が澤山ある。春秋の眺が取り〳〵に美い。

躑躅ヶ丘と稱す。

黄金の瀧　猿澤橋の南寄りの眞下にある。瀧の巖が湯華に染つて金色に輝いて居るので、此名がある。春湯の澤は河鹿の名所で、春の彼岸過から夏の半まで、常に清韻の音を絶たない。

上の山　伊香保神社の後山で、樹木鬱蒼と茂り、四邊の眺望を恣にして居る。後は湯の平の高原に連る。湯の平は又の名を美し野と云ひ、秋草の名所である。桔梗、萩、萱苅、女郎花其他の花があはれに咲き誇る。

物聞山　遠近の樵夫の歌、或ひは山里の砧打つ音などが聞えるので、かう呼



船尾の瀧

途中松柏鬱蒼として天を覆ひ、晝尚暗く遊邃を極む。頂上に至れば琴平、秋葉の二社を祀つた小な祠がある。遠く赤城、日光、筑波の峻嶺を望み、利根、吾妻の兩流蜿々として銀蛇の如きを見る。又の名を琴平山と云ひ、牡鵑の名所として知られて居る。頂上の東南に削つたやうに絶壁が天空に聳へて居る。柵を遶らして。客の眺望の便に供す。眼を放てば高崎前橋の兩市は眼下にある。俗に見晴しと呼んで居る。又物聞山の麓には、宮内省の御用邸がある。

關屋　町の北部にある。昔三國裏街道の守護の關所を設けてあつた處である

今は僅かに門柱の礎のみ殘つて居る。

境澤　町の東北五六町餘の所にあつて、眺望の美を集めて居る。社がある。境澤稻荷と稱す。

中子の稻荷　町の北方十町餘の所にある。東京府下の王子稻荷を分社したもので、朱塗りの華表が八十餘も立つて居る。沿道の細流には蝌が澤山ある。取つて歸つて夕の膳に上すも、又一興であろう。運動を兼ねて參詣するに、適當の處である。

丸山　町の北方十町餘を離れた處に、こんもりと樹木の繁る岳がある。岳の上には稻荷の社がある。昔は躑躅の名所として知られたが、今は其跡を留めない。

七重の瀧　町から五六町、湯の澤を經て向山の背後になつて居る。溪流が嚴角に當つて、七階に折れて落下するより、此名がある。鳥の聲幽かに、溪流の

音耳を洗ふ。傍の茶屋では冷麥、汁粉、雜煮が名物である。

辨天の瀧　町から三十町あるが、路はさして困難では無い。源を榛名に發して、墜落三丈二尺、大小二筋に別れて凄じく落ちて居る。先年常宮殿下の行啓があつて、御手洗瀑と命名せられた。其後有栖川宮、北白川宮兩殿下の御成りもあつた。瀧の傍に沼尾亭と云ふ茶屋がある。又伊香保水力電氣の發電所も、其近くにある。

大瀧　辨天の瀧の下流十町餘の所にある。瀧口は廣く、二つに折れて、奇嚴怪石の雅致に富んで居る。又の名を珠簾の瀧と云ふ。

岩井洞　町から西北に二里半、吾妻川の對岸にある。巖と水と樹とより成る天下の奇勝である。怪巖聳へ立つて、其一端は河中に走り、奔流は遮られて激浪を生ず。巖上の老松は低く水面を撫して枝を垂る。小耶馬溪と呼れて居る。此所に又温泉がある。微湯で皮膚病に効能がある。鹽川鑛泉と云ふ。四時いつ

も良いが、秋の紅葉の時分は、最も美觀を添へる時である。

地藏川原　町の入口から澁川道を下る事八町にして、緩やかに傾斜せる一帶の高原に出る。高山の裾野の特長がこゝに能く發揮せられて居る。春晩くから夏に懸けて、奇麗な草花が咲く。殊に秋草の咲く時が、最も此所の美くしい時である。五月頃は蕨が出る。蕨狩の慰みに、半日を消すも面白かろう。茶屋がある。其前に子育地藏（こそだてぢぞう）がある。其後の岐路を通つて行くと、船尾の瀧、水澤寺等に趣く。

水澤山　又の名を淺間山とも云ふ。山の先が尖つて居るので、遠近から望見する事が出來る。東京の九段の邊からも見えると云ふ。頂上には淺間神社がある。陰暦七月三日の祭禮である。水澤觀音堂は其麓にある。坂東三十三番札所の第十六番で。本尊は千手觀世音菩薩、境内幽閑を極む。堂側の六角堂には地藏佛六體を安置する、佛體は六尺餘の紫銅の立像で、古色蒼然たるものである

堂前には常宮殿下御手植の松がある。又堂の左側には板牌がある。幅二尺、長七尺餘、厚二寸餘で、上部には梵字、下部には『元享四年三月二十日』の文字を刻んである。元享と云ふと今から凡そ六百年前である。兎に角珍な物である附近に水澤寺と云ふ天臺宗の伽藍がある。水澤は昔は本街道に當つて居たので賑つたが、今は道路が變更した爲めに甚だ寥れた。饂飩、新子等が此地の名物である。

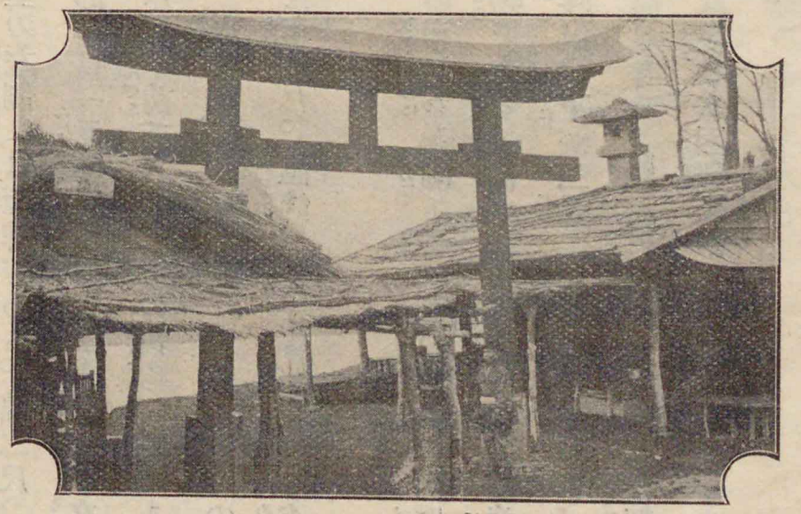
船尾の瀧　ふにうの瀧と讀む、水澤山の南に谷を隔て聳へる船尾山の斷壁から落ちて來る。上野の國の瀑布中最大の物である。高さ二十丈三尺、岩に激して二段に岐れ、上が十七丈一尺で雄瀧と呼び、下が三丈二尺で雌瀧と呼ぶ。其響山谷を震はし、餘沫は濛々と飛んで烟霞となる。壯觀極り無い。水澤觀音堂から二十町、途中草木徑を覆ふて、路は少しく困難である。駕籠の便があれば、婦人等はうれで行けば樂に行かれる。

我樂目嬉温泉　がらめき温泉と讀む。土地では只『から』と云て居る。相馬ヶ巖の東南の麓に湧く。壇類泉で無色透明、温度七十八度の微温湯で、火を用ゐて浴する、火傷、皮膚病、梅毒、疝氣、寸白等に効がある、眺望佳絶、遙かに駿河の富士をも望む事が出來る。伊香保から一里半、高崎に行く途中で路も樂である。

有栖川宮、北白川宮、両殿下の御成もあつた。旅館には阿蘇山館、富士見館等。

名物は鯉、鰷、鰈等の料理がある。

利根川　利根川の鮎は形の大きいのと



天神嶺

味の甘美とを以て知られて居るが。毎年鮎漁の季節になると、築を架けて之を漁す。無數の鮎が發溯として築に入る樣は壯快いである。利根川までは路も近く、交通の便もあれば、伊香保滯在中の一日を割いて、此風流の遊びを試みるも、無益の事では無からう。

箕輪城址　船尾の山の南、箕輪村大字西明屋の椿山にある。城は長野信業が大永年間に築いたものである。弘治永祿の頃、武田信玄が來て、五年間此城を攻撃したが、遂に落す事が出來なかつたと云ふ。今猶堀、櫓、外廓等の遺蹟を殘して居る。

附近の名所は、ざつとこんな物である。此外、温泉神社、醫王寺、天宗寺、藥師堂等は皆古來の名所であつたが、明治十一年、此町に大火があつた時に、皆燒けて了つて、今は其跡を留めない。

以上の名所を探つた人は、更に榛名の勝を探らねばならぬ。伊香保は榛名の

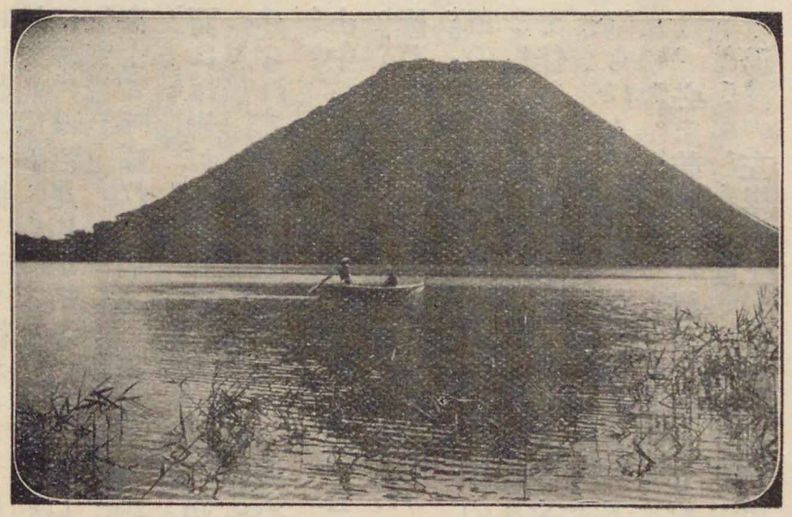
勝景を背後に控へて、始めて天下の伊香保たる事が出來るのである。もし伊香保に榛名が無つたらば、日光町から中禪寺を奪つたやうなものであろう。既に然らば、日光を訪ふ人が中禪寺に遊ばずしては、眞の日光を談ずる事が出來ぬやう、榛名を見ずしては、眞の伊香保を語る資格が無いと云ふ事が出來る。其榛名とは如何なる處か。

椿名の景勝

伊香保から二里二十五町。路は山道だから馬や車は通せぬ。僅かに駕輿に依るの外は無い。然し路は決してそう峻しい事は無い。況んや途中の勝を探るには、必ず徒歩に限る。男子は勿論、少しく健脚な婦人ならば、進んで此天下の名勝を蹂躙すべきである。榛名山は專門語で云へば標式的二重式消火山である外輪山には烏帽子、鬢櫛、硯岩、掃部ケ嶽、氷室山、摺碓岩がある。寄生火山

には相馬ケ嶽、二ツ嶽がある、火口原には榛名牧場、火口原湖には榛名湖、火口瀦には沼尾川がある。中央火口丘には榛名富士で、一名小富士、又は伊香保富士と呼ばれて居る。頂上には馬蹄形の火口があつて、東に向つて開き、此方面に熔岩が流出して居る。海拔四千八百尺。赤城、妙義と共に上州の三山と稱せられて居る。湖水の美と、巖石の奇と、社祠の靈驗とを以て知られた山で、山中に直立する葛籠岩の名は、三尺の童子と雖も、良く之れを暗んじて居る。嫩草に馬子の唄霞む春、青嵐頂を吹いて雲の峯高い夏、虫の音絶えぐ〳〵に千草の花哀れな秋、落葉踏む雉子の時雨に濡れてホロ〳〵と啼く冬、四時何時とて佳ならざるはない。別に急がずとも、往復五時間あれば、伊香保から行つて歸られる、眞の半日の逍遙である。譬へ附近の名所は見遁すとも、此山ばかりは、必ず訪れずに歸つてはならぬ。

湯澤の左岸を上つて行く事四五丁、湯元道から右に岐れて橋を渡ると、それ



榛名湖

から、先が峻しい山路となる。羊腸たる少徑は或時に右に折れ、或時は左に曲る往き〳〵て凡そ半里となれば、二つ嶽、蒸湯の岐れ路に出る。此處から西南を望めば、碧空を突いて天際高く聳へる山を見るであろう。これが即はち二つ嶽である

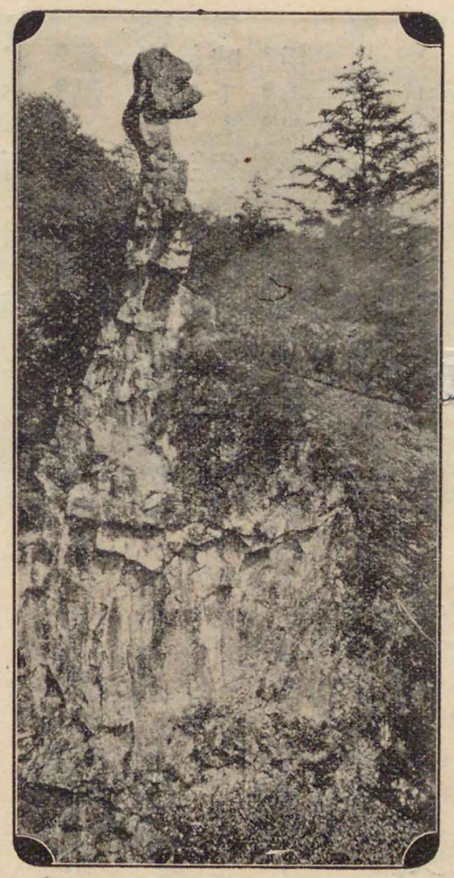
二つ嶽　二つ嶽は駱駝の春のやうに二つの峯から出來て居る。西北にあるのが他よりも高く、これを男嶽と云ひ、他の一つはそれよりも少し低く、これを女嶽と云ふ。頂上に往古噴火した跡の大穴が

ある。滿山悉く燒石で、隨分奇妙な形をした巖が其處此處に立つて居る。其麓に連なる平原は、秋草の名所として知られて居る。八月の頃は芒、萩、苅萱などが一面に咲き揃ふ。

蒸湯　女嶽の東寄りの麓に蒸湯がある。質は硫化水素瓦斯で、皮膚病、痔、癪等に効力がある。此附近は海拔三千七百尺、伊香保から千二百尺高い。盛夏の時でも尚巖蔭には氷が張りつめて居る。

伊香保平　途は益々行きて益々登りとなる。半里近くも行くと瘦胸峠（やせむねとうげ）に出る。前には坦々たる伊香保平を隔て、榛名富士を望み、左には、相馬ヶ嶽、右には高崩を眺め、四面皆青々たる山又山である。此峠を降れば即ち伊香保平、一名を榛原と云ふ。平坦砥の如き高原廣く連りて、四顧の眺望絶佳を極む。此邊又草花多く、百合、杜若、科の花を始め、其他の珍草異卉見渡す限り艶麗を誇つて居る。

摺碓岩　伊香保平の眞中に開けた一筋の新道を行く事凡そ二十町、左手に摺碓岩を見出すであろう。此附近の巖の最も大きなもので、壯觀を極めて居る。攀ぢて登れば中央に大きな吼口がある。此處に立つて眼を放てば、南は遠く上武の平野煙霞の如く、北には伊香保づら沼を手に取る如く眼下に睨瞰す。壯觀譬ふるに物が無い。



岩

相馬ヶ嶽　榛名連峰中、最も高いもの丶一つである。頂上を躑躅ヶ峯と云ひ、平將門の石像を建て丶相馬明神と稱して居る。此山は又の名を黑髮山又は阿蘇山と稱し、傾

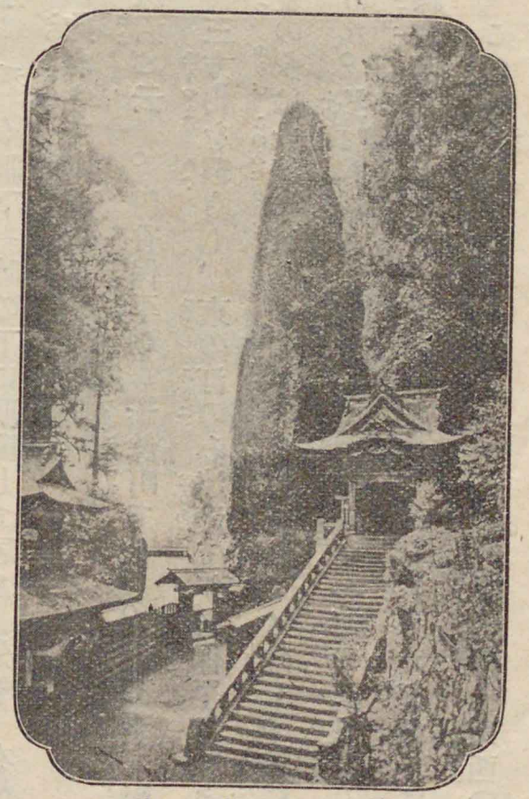
斜急にして嶮しく、草木鬱蒼と繁つて、登山には困難である。處々に鐵鎖を繫いで、登山者の便に供して居る。頂上に至れば眺望雄大、遠く駿河の富士を始めとして、數十里の全景は悉く眼下一眸の下に展開して居る。先年、有栖川宮、北白川宮兩殿下には此山まで御成なされた。

榛名湖　又の名を伊香保沼と云ふ。伊香保平から十餘町である。東西十一町五間、南北十七町十二間、三方山を環らし、東の汀のみ遠淺で伊香保平に續き其邊に菖蒲が多くある。夏の夕は此邊に飛びかふ螢幾萬と云ふこと知らず波穩かで、水は澄んで奇麗である。冬たちそめば滿眸一白、湖水は一面の鏡と化し皎光翠色相點綴する所、榛名富士のもとに、氷海を渡り、スケーチングするは最と興味ある運動である。この皎々たる湖、昨年スケートの諸設備成り東西の紳士貴女の來遊するもの頗る多し。

古來榛名の神の御手洗と傳へられて、往古の噴火坑である事は確である。下流

は落ちて吾妻川に入る。伊香保富士、一畚山、烏帽子嶽、鬢櫛嶽、硯嶽、掃部嶽等の山々は岸を繞つて其影を水に浮べ、風景明媚秀麗、泛舟、釣魚の慰みに適して居る。湖南に茶屋がある。湖畔亭と云ひ、沼の鮮魚の割烹を得意として居る。湖畔亭の邊から湖水の兩岸に沿ひ、辨天の瀧を經て大瀧、七重の瀧を廻つて伊香保に歸る路がある。路は少し遠いが、一帶の風光が極めて良い。榛名湖は一名を伊香保沼と云ふて居る。

伊香保富士　この山は又一名を榛名富士、又は小富士と云ふ。榛名湖の東北



榛名神社

の岸に聳え、形は殆ど駿河の富士山に似て居る。麓に一畚山と云ふのがある饅頭形をした小山である。又其根は一面の牧場に連つて居る。

天神峠　湖畔から尚左の岸傳ひに行けば、道は又登りとなり、小坂を上り盡せば天神峠である。頂上に榛名神社の大華表が建つて居る。其邊に富士見亭、掬水亭の二軒の茶屋がある。眺望の美云ふ計りなく、名物の新子を賣る。路はこゝから爪先下りとなり、榛名神社まで十八町、一息で行つて了ふ。尚ほ路は新舊の二筋がある。那方も景色が良い。

葛籠岩　峠から十餘町來ると、谷川を隔てた對岸に葛籠岩と云ふ奇岩がある高さ三十丈、鶴が長い頸を延したやうな形である。三歳の子供までも、此岩の名を知らぬものが無い程の有名なものである。

榛名神社　葛籠岩から尚行く事數町、榛名神社の裏門に達す。門を入れば奇巖怪石兀々として並び立ち、樹影溪流青々として夏を忘れしむ。縣社にして彥

由支命を祭る。本社へ登る石段は曲折しく高く、中段に雙龍門がある。其傍に杜の様な大岩が立つて居る。これを鉾ヶ嶽と云ふ。社地は凡て岩石を切り開いたもので、奇岩怪石が處々に澤山立つて居る。本社の背後にも、又奇妙な形の岩か立つて居る。殆と人の形に似て、これを御姿岩と云ひ頂上に幣を立てゝある。本社拜殿は彫刻に丹朱金銀の極彩色を施し、頗る綺麗びやかである。石段を下りて御神水の前に出れば、二軒の茶屋がある。新子、饂飩を名物として居る。それから少し行くと、朱塗の神橋が溪流に架してある。尚其先には袖摺岩、雷電岩、大黒岩、瓶子岩、獅子岩、を始め無數の奇形を有する岩が兀々として聳えて居る。朱に塗つた三重の塔のある邊から、所謂千本杉の老杉森々と繁り、更に御祓橋、隨神門、龍神橋等を越えると、唐銅の大華表がある。其前の石段を下りれば即ち榛名山村である。

●榛名山村　村内には舊御師の家多く、昔は賑かな土地であつたが、今は甚だ

寂れて居る。戸數二百戸、森寂とした靜な山里で、蕎麥が名物である。茲から室田を經て高崎へ出る路がある。其里程六里

榛名の名稱は弦に盡きて居る。

▲名所里程

●物聞橋より水澤觀音まで一里二丁四十五間●同橋より船尾瀧まで一里二十八丁二十五間●伊香保神社より見晴シまで十丁●同神社より琴平神社まで八丁四十間●同神社より見晴シ二ッ岳を經て「ガラメキ」鑛泉まで一里二十四丁五十間●藥師堂より岩崎橋まで四丁二十間●岩崎橋より鷲の巣茶店まで十二丁三間●鷲の巣茶店より「ヤセチネ」茶店まで十四丁四十間●「ヤセチネ」茶店より天神峠まで一里一丁十五間●天神嶺より榛名神社まで十八丁●藥師堂より榛名神社まで二里十四丁十八間●鷲の巣茶店より二ッ岳蒸湯まで八丁四十間●關屋より七重の瀧まで五丁三十間●關屋より辨天の瀧まで二十五丁十間●辨天の瀧より湖畔亭まで一里十九丁三十間●辨天の瀧廻り榛名神社まで二里二十六丁四十間●關屋より湯中子まで十一丁四十間●湯中子より大瀧まで五丁●大瀧より辨天の瀧まで十六丁五十間●關屋より大瀧辨天の瀧分れ道まで十八丁十間●物聞橋より琴平神社まで五丁二十間●琴平神社より見晴シまで四丁二十間

伊香保ろの岨の若松限りとや君が來まさぬ心もとなくに　萬葉集

伊香保嶺に雷な鳴りそね我方には故は無くとも兒等に依りてそ　同

伊香保風吹く日吹かぬ日ありといへど我戀やみし時なかりけり　同

上野ぬ安蘇山葛野を廣み延ひにしものを何か絶えせぬ　同

伊香保なる物聞山のほとゝぎすにこらぬことに聞ゆなるかな　夫木集

我が戀はあそ山本のあをつゝら夏野を廣み今盛りなり　同

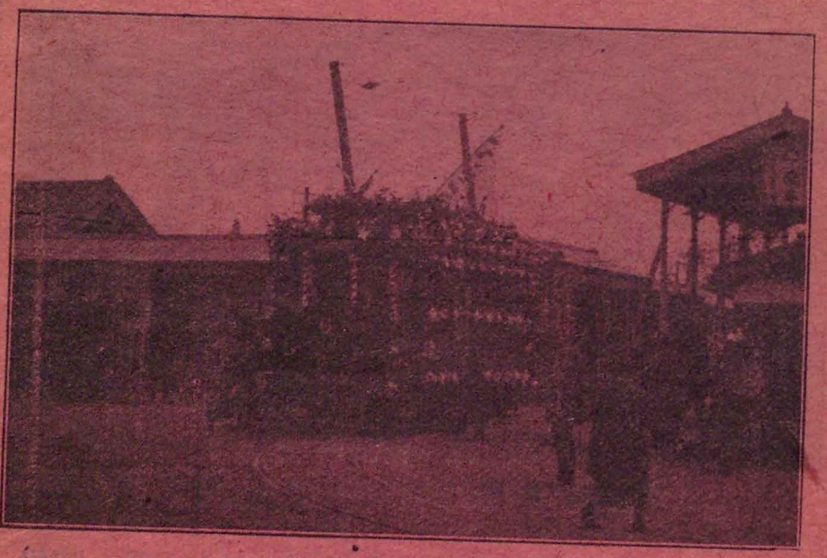
唐衣かくる伊香保の沼水にけふは玉ぬくあやめをそひく　定家卿

上つけの伊香保の沼のかきつばた黑髪山にかゝるうすくも　人麿

明治四十四年六月廿日印刷
明治四十四年七月三日發行

著者　鈴木秋風
發行兼印刷者　群馬縣伊香保町十二　岸喜平
印刷所　東京市麴町區飯田町ノ六　公木社
發行所　群馬縣伊香保町　岸物産商店
定價拾參錢

高崎澁川間の電車

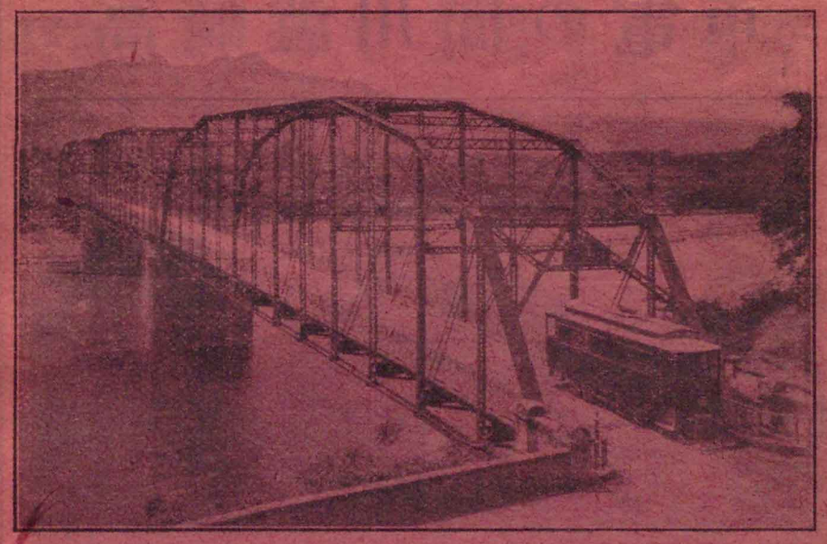


▲毎朝五時四十分より夕七時五分迄四十分毎に高崎澁川兩端より發車します▲電車は高崎官線鐵道停車場にて汽車に接續致します▲上野伊香保間直通賃金通行稅共一圓六十七錢▲毎日午前午後の四回高崎伊香保直行便があります澁川にて乘換なし▲高崎澁川間に限り往復五十一錢の割引切符があります▲團體には割引します

高崎水力電氣株式會社

電話　本社　一八番
運輸部　一〇三番
澁川支社　五二番

直通切符は上野伊香保兩驛で發賣



沿道坂東橋より遙に榛名山を望む

伊香保澁川行 前橋電車の特色

◎毎朝五時四十分より夜八時三十分迄三十分毎に前橋鐵道驛前及澁川の兩端より發車し前橋市内は不斷運轉す

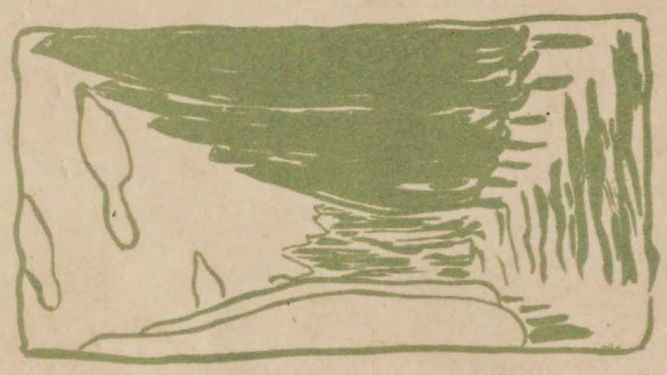
◎本線路は東京及水戸奥州方面より伊香保草津其他上州各有名なる溫泉への近道にして順路なり

◎車体は最新式に調製し内部は美麗にして乘心地好く速力も亦迅速なり又特等並等の區別あり

◎本線路は風光明媚なる利根河畔に沿へ居れば居ながらにして赤城榛名妙義且つは淺間の雄大なる光景に眼を樂しめ脚下直に利根の清流に耳を洗ふを得べし

◎團体割引車台貸切特待乘車等の設備あり又團体乘車は前日迄御申込あれば千人迄は御引受致すべし

◎上野伊香保間連絡運轉實施す此賃金壹圓六拾錢

利根發電株式會社運輸課

電話 一三〇番
澁川發着所
電話 二四番